

スギヤマノリナホ 杉山則直 長續連の子。杉山伯耆直光に養はれて、又通稱を伯耆といふ。天正五年九月十五日、上杉謙信に内應した遊佐續光が、長續連・綱連等を誘殺した時、則直は病んで家に在つたが、敵の亂入するを見て自刃した。

スキヤモン 數寄屋門 金澤城二丸廣式の西から、玉泉院丸入口紅葉橋へ下る間の門を數寄屋門といふ。數寄屋屋敷に接するから名稱である。

スキヤヤシキ 數寄屋屋敷 金澤城内で後世二丸廣式の又者部屋の建てられた附近から西方の地を數寄屋屋敷といふ。古へ數寄屋のあつた所であらう。

スキワカサエモン 杉若九左衛門 實は雨夜與助の子であつたが、母の氏を稱したものの。前田利長に仕へて二百石を受けた。五代文左衛門の時越中東岩瀬の代官となり、寶曆十二年同地に於いて澤田藤左衛門と果し合ひ、家断絶した。

スキヲカニヘエ 杉岡仁兵衛 前田利家に仕へて二百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

スクナヒコミカタイシジンジャ 宿那彦神像石神社 鹿島郡金丸に鎮座する。三代實録に「貞觀二年六月九日戊子。能登國宿那彦神像石神列於官社」式内等舊社記に「宿那彦神像石神社。式内一。金丸村宮地谷鎮座。今稱「金丸明神」。一宮氣多神社之攝社也。但有「異説」。文政社號帳に、「當社少彦名命は大己貴命と相伴之神故、毎年二月中、申日一宮之神與所口本宮へ御神幸之節、則當社少彦名命も御輪と御同幸有之、御歸幸之時右之御輪

當社に納り申事、舊例之神事に御座候。」など見える。

スクナヒコミカタイシジンジャ 宿那彦神像石神社 鹿島郡黒崎に在る。式内等舊社記に「宿那彦神像石神社。大吞郷黒崎村鎮座。以「神石」爲「正體」。或云式内神社蓋此神社也云。」と記する。

スクヒギン 救銀 ↓スクヒマイ 救米。スクヒマイ 救米 凶作の翌年一般に困窮する時は、藩より米・銀・雜穀又は粥を施與した。之を御救米又は御救銀といふ。山方等の稼業少く、深雪の爲坐食せざるべからざる如き地方にあつては、不作ならずとも尙御救米銀を興へて保護することもあつた。

スクボ 須久保 羽咋郡河内の内の小字。スクボ 助 鹿島郡黒崎の古き百姓の名。越後勢の兵糧米を運送する船がその沖を通つた時之を奪ひ、前田利家に献じたが爲に、御扶持米を興へられたといふ。

スケ 助 鹿島郡瀬風の百姓。元祖助は十村役を勤め、前田利家から御扶持高七石五斗の印物を賜はつた。

スケクロウチヨウ 助九郎町 金澤の町名。今野町大蓮寺の尻地邊を助九郎町と稱するが、文政三年石坂茶屋町の遊廓を建てた時までは、その地にかけて助九郎町であつた。

スケサハ 菅澤 鹿島郡南三郷に關する部落。スケサハ 菅澤 スケ 珠洲郡樫原の内の小字。

スゲタ 菅田 珠洲郡馬渡の内の小字。

スゲノタニ 菅ノ谷 スケン 鳳至郡山田郷に關する部落。スゲノハラ 菅ノ原 鳳至郡浦上の内の小字。

スゲノヤナガヨリ 菅屋長頼 九右衛門と稱し、織田信長の臣であつた。天正八年温井三宅が長連龍の爲に菱脇・金丸に破られ、七尾城を信長に獻じて罪を謝した時、信長は前田利家・福留行清と共に長頼を能登に下してその州事を掌らしめ、長頼はその筆頭として暫く七尾に留つた。

スケマサ 助政 珠洲郡樫原の内の小字。スケミツ 助光 加賀の一代鍛冶。藤島五郎左衛門入道と稱した。元和頃。

スサキ 須崎 石川郡鞍月庄に關する部落。スサキ 洲崎 珠洲郡折戸の内の小字。スサキキヨウカク 洲崎慶隆 越登賀三州志に、慶覺坊はもと江州の者で、洲崎兵庫といひ、蓮如の弟子となり、河北郡松根の堡に住し、森下・柳橋・小坂・大樋までを押領した。後石川郡米泉に移つて、西泉・泉野の三村を領分とし、自ら泉入道と稱した。後人和泉守と稱するものは誤であると記する。藤涼軒日録文明十七年十月廿四日の條に、「臨川寺領賀州宮腰に慶覺強入部。可被成御奉書之由、自寺家以一行被白。」といふも是であらう。又大乘院寺社雜事記明應四年正月十八日の條に、「賀州一向宗、長云々。鏡覺は公方に參申。」とある鏡覺も同じい。慶覺米泉に一道場を建てたが、後寛永中之を金澤百姓町に移して慶覺寺となつた。

スサキキヨウロサエモン 洲崎十郎左衛門初名兵庫。洲崎泉入道慶覺の子。官地論漢字

本に諱を正末に作るが、同書國字本に據れば、正末は石黒孫左衛門の諱で、十郎左衛門は久吉であらねばならぬ。越登賀三州志に十郎左衛門正季に作るものは更に誤つてゐる。

スサキナガヤス 寸崎永毅 通稱資二郎。初め御居間方から定番御歩となり、次いで新番に任じ御近習に勤仕し、文化五年新知八十石組外に進み、兩次に五十石宛を増し、文政五年竹澤附御書院組に屬したが、七年組外に復し、八年大小將組與御納戸奉行に任じた。

スサキヒヨウゴ 洲崎兵庫 初名孫四郎。享祿・天文の頃一向一揆の徒として活躍した。

スサキヒヨウゴ 洲崎兵庫 關屋政春の古兵談に、上杉謙信の加賀に侵入して河北郡中條・太田の民家に寒夜を凌いだ時、洲崎兵庫といふ一揆大將が襲撃して之を破つた。後前田利家知行千石を以て之を祿したが、數度の軍役に些の功名もなし得なかつたとある。これは前項の兵庫の更に次代かと思はれる。

スシヨバシ 圖書橋 金澤橋梁記に「圖書橋、しやうづ高」とあつて、惣梅堀の橋であつたが、廢藩後惣梅堀を廢し、今は土橋となつた。元祿の頃には稻葉左近の邸が近かつたから左近橋といふたが、享保頃になつては加藤圖書の邸前に當つたので、圖書橋と呼ぶやうになつたものである。

スエキ 珠洲驛 珠洲郡に在つたと考へられる古驛で、大同三年紀に「廢能登國能登郡越蘇穴水。鳳至郡三井・大市・待野。珠洲等六箇驛。以「不要也」とある文により、待野の次に珠洲郡の三字が脱せられて居るのであると解するものがある。故に村岡良嗣は能登國田數目錄録に「珠洲正院三十七町、承久